

平新報

本行日 五月八日 発行日 五月八日

光線科 吉田定太郎

上海觀光記

吉田定太郎

二十一日つづき... 路傍の至る處に散見するも、二千年來の古塔は、臺灣の無教育の者の爲に代價に足るものである。此明の筆に成つたものが、清結東外國互市場として開放の代書を用足して呉れ、蘇州城内を一時の内末に至つて發掘し、古碑はされた土地である。此地は、蘇州は蘇州河と大運河との會流點に位置し人口四拾萬と、江蘇屈指の大都會である。初めは文藝會で、一八九六年馬關條約の締結後、外國の勢力が滬甯線を築き、上海の商業區の中樞である。黄浦江の河口に面し、歐風の吹致極めて幽雅な小公園であつて、江を下するジャンボ船と汽船を眺めて居る。此處に記念の撮影場がある。此處に日本の商店が頗る多く和服姿の日本婦人や、度交際の爲に來て居る香港軍陸隊員等が陸續と街路を進行して居る様を見れば、宛然内地に在るの思ひがし。

平町田町 高久病院 電話五一三番

西村屋藥舖 平二丁目 長電話參番 磐城セメント代理店

白づぼんセル 2.30 赤かや洋服店

度々衡販賣 液體空氣會社製 吸入用酸素 酸素吸入器 電話四〇番

山野邊無砂搗精米所 電話三一八番

デリケートなりし

平町助役承認會

町會分野はどう動く

もみにもんだ町助役問題 民政黨へ復讐するといふ噂 崎氏の縣議選は有利に展開
も去る一日の會議で伏見町助も、元來氏は憲政會すべく比佐代議士が如何なる
長の推薦した、酒井寅之助の人、大浦水電問題頭よりの言動に出づるか一寸考い
氏が平町助に決定就政友會の人となつたのである。時にかくも騒々しく見苦しい町
職したのである。詳細は各報から元樹に勝る裏本なし 青沼氏、否其派の今更行
新聞に報せられて居るから、その道を辿るのから知れ動あるが、青沼氏は伏見町
今更それが批判でもあるまい、然し辛巳會は助役問題長面白からざるためか助役
いが、萩原一派が當然伏見で生れたものではなから、自薦渡邊某がかつて青沼氏
町長を選挙した關係上又町此の際解體せなければ別 の選挙事務長たりし義理合
長擁護派として自他共に町に會員には異動は生じまいから、若し後者の理由か
して居つた其派として、町にの事であるが、緑川町議らとせば幸いだか前者とせ
長の推薦せる酒井氏を承認が交誼淺からぬ、馬目武氏 ば大入げがない、青沼氏と
するものと信じて居つた處同志と別行動を採つた緑川 伏見町長に今少し勇敢で
大猿只ならぬ野崎派と合流 氏の進退は果して堂々たる 年後の町長選挙迄の町會
して退席、加ひてその町長ものであつたらふか、自薦 中町建設のためには大英斷
選挙以來萩原派と心よから 候補運動猛かつた渡邊某 員に分野をどうなる事か
ぬ青沼派が又後を遂ふたの どのういふ關係があつたの 朝に平家の客を送り夕に源母
だから面白いものである。か、世人は種々雑多な噂さ 母を去つて鶴岡に歸省さ
野崎氏がかつて伏見町長を になして居る。兎に角自治 いたものである。職を培ひ進
選挙した議員であつたが近 體に政黨入るべからずと 進の如く、一夜に感情、又、
來萩原氏の町長擁護を逆 にしても、吉村、吉田寅二氏 勤定、私情のために發り立
進んで居つたは世人周知の には政黨に入つた事でもあ 舊談に花を咲かし舊情を温
事實、だが萩原氏の今回の るまいし青沼、緑川氏等が ないであらふが、この
舉は何に因るか、同志の 民政黨へ入黨した事でもあ 候宣言當時の如き正々堂々め
吉田寅、吉村兩氏の辛巳へ 推し進められ、今更の酒井助役 なるの概なきに於て、轉だ
走つた關係であらふ、然ら 推し進められ、今更の酒井助役 なるの概なきに於て、轉だ
ば吉村、吉田寅氏何故に辛 推し進められ、今更の酒井助役 なるの概なきに於て、轉だ
巳へ入つたか、かつて谷口 推し進められ、今更の酒井助役 なるの概なきに於て、轉だ
の宴席で萩原氏と口論せる のみの承認した助役でない 候宣言當時の如き正々堂々め
とかの噂があつた、次に事 になる理である。又今更の なるの概なきに於て、轉だ
背沼派でありし齋藤氏は 何の助役承認問題で、萩原 なるの概なきに於て、轉だ
故に辛巳の人となつたか辛 野崎派が行動を共にせるか なるの概なきに於て、轉だ
巳の緑川氏、今回の舉措は ちと釋然と縣議選を前に なるの概なきに於て、轉だ
一にも二にも渡邊氏を推し 合流し得るか、萬一得た とかつたか、吾人第三者の
の策動せるもので、此際 せば、民政黨の幸であり、 なるの概なきに於て、轉だ

警中同窓會通報

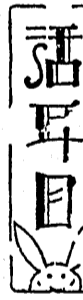
例年の通り警中同窓會は八月十日午後一時
より母校に於て開催、終つて午後六時より平町谷
口樓に於て懇親會を開催す。
懇親會々費 貳圓五拾錢
昭和六年八月
警中同窓會
會長 諸 橋 久 太 郎
會員各位
右を以つて通知に代へ度、尙ほ懇親會出席の方
は準備の都合有之方方まで前以つて御知らせ被下
度候

考古・趣味家 集家管見 (1)

蒐蒐 黒猫生
永い間平の骨董界は一時酒家に傳つて居る武器が第一
井國師の統轄する尙古會にだらう。
よつて中耳られて居つた。次に三井さんの 柏原秀
最近老人より若人と廻り 蔵氏で此の人は商人畑で
て加藤丈夫氏一派にやあるだけ側から高名な物で
つて中耳られて居る様だ。も見ると飛んでつく極り好
山と積まれて居る金で集め者だ。元は骨董品の様であ
て居る加藤氏、刀劍につては最近刀劍を非常に
古人形に、書畫集めて居る様だ。眼識も仲
に、目に見て古くて々高く正宗始め新刀では虎
儲かるものと直ぐ手を出
徹忠寺迄三十餘刀の愛藏家
に、目に見て古くて々高く正宗始め新刀では虎
儲かるものと直ぐ手を出
徹忠寺迄三十餘刀の愛藏家

暑中御伺

- 好間 古河礦業株式會社
好間 礦業所
平町二丁目 大一屋商店
平町二丁目 三井自動車部
小名濱町 清水屋本店
泉村 三戸源太郎
湯本町 鯨岡 潔
平町才地小路 山野邊 義政



活耳日
學窓を同うする人々がた
に一堂に會して懇談會安す
結構な事だ、本當の懇親
會であつて喧嘩等の問題は
最も自慢は安藤起したくな、ものだ。